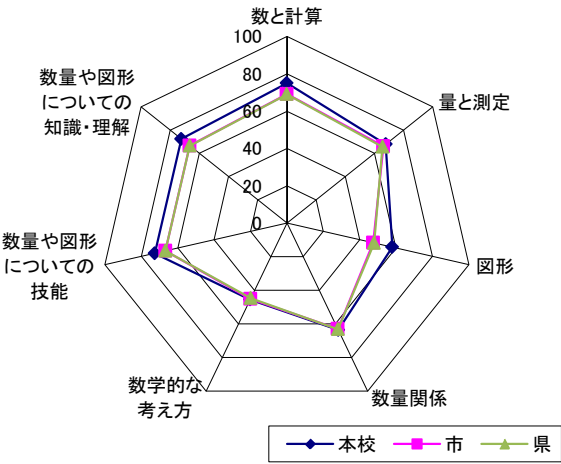


宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.1	69.2	69.1
	量と測定	67.8	66.1	65.6
	図形	57.9	47.4	48.0
	数量関係	63.6	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	45.5	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	72.6	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	72.4	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県と比べて6.0ポイント高い。 ○整数÷小数=小数, 3位数×2位数=5位数, 余りのある除法の計算の答えを確かめること, 合計が3千円になる乗り物の組み合わせを求めることができる。全校体制で話し合い学習を取り入れた授業を推進してきたことや児童一人一人に家庭学習の習慣を身に付けさせてきたことの成果であると考えられる。	・今後も朝の学習の時間や家庭学習で計算の反復練習を行い, 定着できるようにする。また, 授業に問題の解き方を友達と一緒に考える場面をつくり, 説明できるようにすることで理解が図れるようにする。
量と測定	平均正答率は県とほぼ同じである。 ○分と秒の単位で表された時間を秒の単位に換算することができている。日常生活の中でも意識して単位の換算を行った成果と考えられる。 ●算数の教科書1冊のおよその重さを選ぶことに課題が見られる。	・今後も授業の中に時間や距離, 重さの単位の換算を取り上げ, その方法が身に付くようにする。また, なぜ単位の換算が必要なのかを考える指導も行う。 ・重さの問題に関して今後は, 実際に持って重さを予想させ, 秤を使って確認する作業を行い, 実感を伴い理解できるようにする。
図形	平均正答率は県と比べて9.9ポイント高い。 ○円周上の点を通る直径を定規を使って作図することや正三角形を作図することができている。デジタル機器を活用して指導してきた成果であると考えられる。	・今後も作図の問題を指導する際にデジタル教科書や実物投影機を活用して理解が図れるようにする。また, 児童の作図の様子を把握し, 個に応じた指導を行い, 理解が図れるようにする。
数量関係	平均正答率は県とほぼ同じである。 ○棒グラフの目盛の大きさを読み取ることができている。同様の問題を学習プリントで復習してきた成果であると考えられる。 ●等分除の問題について, 除法の式を立式し答えを求めることに課題が見られる。	・今後も朝の学習や家庭学習で学習プリントやドリルを使って復習し, 解き方を理解し習得できるようにする。 ・今後は, 乗法や除法の文章問題を解く際に, 問題の内容を図に示してどのような式が立つかを考えさせ, 図の描き方や立式の方法を理解できるようにする。